

2023 年度 事業報告

役員会

目的 地域に必要とされる助産師の資質向上を図り、地域母子保健活動に貢献する場を拡大する

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 地域での活動支援を強化</p> <p>2. 助産師会組織運営基盤の整備</p> <p>3. 組織強化のために、魅力ある体制づくり</p>	<p>1. 1. 1) ①行政、他団体との関係性を深める ②行政、他団体の会議、研修会への積極的な参加 ③奈良県母性衛生学会での演題発表 ④日本助産師会学会での、演題発表</p> <p>2) 実践技術力の向上(助産・保健指導・観察力) (1) 実技を伴う研修の充実 年 1 回実施 ①開業助産師・訪問助産師が講師の研修会実施</p> <p>3) 三部会の役割を明確化し、部会間の連絡会議を実施する</p> <p>4) 災害時の地域協力と対応 (1) 災害時の会員情報確認システムの見直し (2) 県内行政と医療機関との連携を確立する ①行政との会議および訓練へ積極的に参加する ②助産師会内での役割を担当の明文化 (3) 災害時活動支援物品の保管(衛生材料・ビブス等)</p> <p>(3) 地域の住民対象に、母子保健イベントの開催 (新型コロナウイルス感染症感染法 5 類引き上げ後)</p> <p>2. 1) 会員数に伴った組織編成の見直し 2) 理事数の削減、委員会、係の見直し(業務内容の整備) 3) 定款・規約の見直し</p> <p>3. 1) 会員獲得(目標 150 名)</p>	<p>1) ①②行政の会議、他団体の研修会等に参加する事により関係性は深められた。 ③会員から 2 題の演題発表 ④達成出来ず</p> <p>2) (1) ①保健指導部会で実施</p> <p>3) 連絡会議の開催は出来無かった</p> <p>4) (1) 今年度の災害訓練安否確認は、勤務部会が参加。各部会員出来るだけ多くの安否確認を行うために Google フォーム、band 等の活用が見られた。 (2) ①災害対策委員会が奈良市広域防災訓練に参加 ②達成出来ず ③保管場所である事務所の整理は出来たので、次年度も継続し取り組む</p> <p>(3) 達成出来ず。</p> <p>2. 1) 2) 3) 会員減数による組織の見直し、定款の見直し、理事数の削減は達成出来た</p>

	<p>①委託訪問指導者を増やす ・希望される会員に訪問物品の貸し出し</p> <p>②表彰者推薦 会長賞 2名 県看護功労 2名 読売新聞医療功 労 1名</p>	<p>3. 1)達成出来ず</p> <p>①行政による委託訪問の形に変化があり、委託訪問市町村の数が増えず達成出来ず。</p> <p>②会長賞 2名 県看護功労賞 2名 母子保健奨励賞1名推薦</p>
--	---	--

- 目的
- 1.より安全な助産所への発展
 - 2.開業助産師の資質向上と社会的地位の確立
 - 3.災害時には地域の母子支援の拠点となる

目標	計画・具体策	評価
<p>1.嘱託医療機関との連携整備と契約継続</p> <p>2.有害事象ゼロと事故防止</p>	<p>1.</p> <p>1)日頃より嘱託医との間で、様々な状況を想定した連携や始動方法について具体的に協議し共通理解・合意しておく (各助産所が円滑な連携ができるように書類の作成・整備・実践、顔の見える関係作り、可能な限り健診に同行)</p> <p>2)後方支援病院等の研修受講 奈良県産婦人科実地臨床研究会・奈良医大周産期症例研修会への参加(必須)</p> <p>3)奈良県周産期医療協議会への参加 母子保健推進会議への参加</p> <p>2.</p> <p>1)助産業務ガイドラインを全員が同じ認識のもと遂行する為に部会員全員で行う転院搬送事例の症例検討会でその症例にかかわる箇所の読み合わせを行う</p> <p>2)包括指示の遵守・各助産所でマニュアルを作成し、助産所安全管理評価時に確認</p> <p>3)3部会による公平性のある助産所安全管理評価を実施(年1回)</p> <p>4)転院搬送全事例について助産所部会長・副部会長・安全対策委員で協議を行い、承認し日助に送信する 安全対策委員より報告を受けた転院搬送事例を部会員全員で症例検討を行う</p> <p>5)産後ケアの事故事例を通して、日頃より様々な状況を想定して、</p>	<p>1.</p> <p>1)合意出来ている</p> <p>2)参加努力を全助産所が行っている</p> <p>3)参加している 奈良市・天理市・大和高田市・大和郡山市</p> <p>2.</p> <p>1)今年度は症例検討すべき症例なし</p> <p>2)確認し安全対策委員より日本助産師会に報告した</p> <p>3)新規嘱託医療機関契約施設について安全対策委員 3名による安全管理評価を実施している</p> <p>4)送信している 対象症例なし</p> <p>5)実践できている</p>

<p>3.助産診断能力の獲得・確認</p> <p>4.災害時に備えて地域の母子支援ができる</p>	<p>予防策を考え実践する(必要な研修や知識の習得・記録の整備)産後ケア時のヒヤリハットを含めて症例検討を行う</p> <p>6)部会員全員の NCPR 更新</p> <p>7)個人情報保護する</p> <p>3.</p> <p>1)アドバンス助産師の取得、更新のための研修受講</p> <p>2)教育委員主催で助産所部会担当研修会実施 (2回実施)</p> <p>3)記録(各種管理記録・助産録・マニュアル等)の整備</p> <p>4.</p> <p>1)災害対策委員・助産所部会長・安全対策委員で各助産所の防災対策の実態把握をする為に会議を持つ</p> <p>2)災害時の具体策を部会で検討(フロー作成・備蓄品の確認等)</p> <p>3)災害訓練:部会員の安否確認(SNS)・災害対策委員会と共に災害訓練を1回/年行う(シナリオ又は実施)</p> <p>4)災害研修会の参加</p>	<p>6)更新完了している</p> <p>7)実施できている</p> <p>3.</p> <p>1)新規取得はなく次回更新の為の研修は受講できている</p> <p>2)実施した</p> <p>3)整備されている</p> <p>4.</p> <p>1)三者で会議を行い各助産所における必要物品リスト作成中。実態把握は出来なかった</p> <p>2)フロー作成は出来ず。物品は各施設にて確認できている</p> <p>3)実施した</p> <p>4)参加できている</p>
---	--	---

目的

地域での母子保健活動が円滑に安全に実施できる力をつけ、幅広く活動できる。

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 安全で安心な保健指導、母乳育児支援を行う。</p> <p>2. 地域母子保健に携わる助産師として質の向上を図る。</p> <p>3. 都道府県保健指導部会集会、特に近畿保健指導部会集会と連携を図る。</p> <p>4. 地域における行政・関係機関の動向を知る。</p> <p>5. 保健指導部会安全マニュアルを定着させる。</p> <p>6. 訪問事業以外にも幅広く活動を展開できる人材の確保を目指す。</p> <p>7. 災害発生時の安否確認を適切に行う</p>	<p>1. 本部の安全管理評価表を基に、部会員が活用できる評価表を検討する。</p> <p>2. 部会員の希望する研修を提案し、教育と共同で研修会を運営する。</p> <p>1)「具体的な産後ケアの準備と乳房管理」</p> <p>2)「どうなってるの？パパの産休・育休」</p> <p>「お父さんの最強の応援団になる」</p> <p>3. 各地区研修会の部会集会に参加し、情報共有し、問題・課題の解決に努める。</p> <p>4. 市町村の動向、部会員の活動の状況を把握し指導員の活動の場を確保する。</p> <p>5. 継続的に追加・修正を行い、部会にて周知する。</p> <p>6. 地域助産師としての活動の場を訪問事業以外に展開していけるように、先輩助産師による技の伝承プロジェクトを企画し、アウトリーチに参入できる人材の確保を行う。</p> <p>7. 災害発生時に部会員の安否を適切に確認できるよう、災害対策係と共同で方法を検討する。</p>	<p>1. 本部安全評価表に対し意見を出した。</p> <p>2. 偶数月第一月曜日、計 6 回の部会集会を開催し部会員との日々の活動を共有し、問題解決に努めた。参加が少なく今後の検討課題とする。</p> <p>部会より提案した希望研修を教育委員会の御協力のもと無事開催できた。</p> <p>3. 全国および地区研修会の部会集会に参加し、課題を改善するために全国の部会員と意見交換を行い、その情報を年6回の部会集会で共有した。</p> <p>4. 地域の市町村会議に参加し、部会員の活動状況を確認した。</p> <p>5. 安全対策マニュアルの追加・修正はなかった。</p> <p>6. 1 月 26 日(金)先輩助産師による技の伝承プロジェクトとして「母乳育児支援」についての研修会を開催した。参加人数 11 名、内部会員 8 名参加</p> <p>7. 安否確認訓練にBANDを使用。結果、多くの部会員が BAND に参加し、最終 36 名中 32 名 88.9%の確認に至った。後日未確認の方へのフォローも行った。回答方法として Google フォームを利用することで動員要請にも積極的に参加の意思が見られた。</p>

目的

助産師会の強みを生かした情報提供を行い、勤務部会員のつながりを図る。

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 部会間の交流連絡をもち、情報交換をする。</p> <p>2. 部会員のつながりから会員数を増やす。</p>	<p>1.</p> <p>1) 奈良県助産師会勤務部会集会を開催する。 (1) R4 年度に引き続き産後ケアについての情報交換 (2) 理事会報告などの会の動向を伝える。</p> <p>2) 日本助産師会勤務助産師部会集会の参加を band、ホームページ、一斉メール配信する。</p> <p>3) 研修会などの情報提供を band、ホームページ、一斉メール、三部会だよりなどで月に 1 回は、おこなう。</p> <p>2.</p> <p>1) 教育に携わっている勤務部会員より、助産師学生へホームページ閲覧など案内をしてもらう。</p> <p>2) 助産所に設置している入会リーフレットを実習時に手渡ししてもらう。</p> <p>3) 研修会などで、助産師会の活動をアピールする。</p>	<p>1. 勤務部会集会を3月9日に開催した。産後ケアのテーマに沿い、「病院施設の産後ケアの現状～アウトリーチ型産後ケアと地域連携～」、日本助産師会 近畿地区勤務部会委員 姫路赤十字病院 太田加代助産師による研修会を開催できた。 参加者 12 名</p> <p>2. 各発信できるツールに沿い部会集会や情報発信をおこなった。が、部会集会や研修参加及びコミュニケーションツールへの参加は少なく引き続き課題となった。</p> <p>3. 各研修会や助産院などで入会案内をしてもらっている。引き続き、会員数増加は課題である。</p>

目的 ホームページの編集や三部会だよりの発行・SNS 発信を通して当会の認知向上及び専門的な情報発信による社会的貢献を果たす。

目標	計画・具体策	評価
<p>1.ホームページを充実させることにより、最新の情報提供ができ、会員の専門性向上のための新しいツールとして定着させ活用を促進することで、魅力ある奈良県助産師会をPRする。</p>	<p>1.</p> <p>1)部会・委員会・系の依頼を受け、校正・掲載作業を迅速に行う。</p> <p>2)ホームページパトロール(各月担当制で随時)を行う。今後ホームページ掲載原稿にはすべて掲載期限をつけて掲載する。(削除の時期)</p> <p>3)編集作業のマニュアルをより良いものに随時更新していく。(係員誰もが担当できる)</p> <p>4)三部会だよりを年3回発行(7・11・3月)</p> <p>(1)掲載内容にタイムラグが生じず、適切な時期に情報を伝えられるように、各委員にイベント報告や研修会報告など随時ホームページへの掲載や SNS 掲載を提案していく。</p> <p>(2)郵送希望は現在 21 名。郵送必要な方には引き続き郵送は続けていく。</p> <p>5)ホームページの検索数をのばす</p> <p>(1)ホームページ検索状況の調査をする</p> <p>(2)チラシを作成し助産師会とホームページの PR をし、助産師学校や市町村など配布する</p> <p>(3)助産所のホームページなどにリンクを依頼する。</p>	<p>1.会員向け情報提供ツールとして活発であるが、非会員や母親向けのツールになるような工夫が必要。</p> <p>1)1 週間以内の対応はできた。</p> <p>2)掲載期限付き掲載により、削除の時期が明確になり、パトロールが効率的になり系の負担が減った。</p> <p>3)編集マニュアルの完成度が高い。必要時更新する。</p> <p>4)今の時代の流れとともにホームページでタイムリーな情報発信ができる為、年1回発行を提案し理事会承認を得た。</p> <p>(1)原稿依頼から締切設定し、すぐに作成し、各係に原稿確認を頂き印刷、郵送の手順となる為にあまりタイムリーとは言えないが、係としては1日でも早く三部会だよりが届くように努力した。</p> <p>(2)次年度からも20名の郵送を継続する。</p> <p>5)</p> <p>(1)2023年9月よりそれまで約900あった検索数が約300まで減少。</p> <p>(2)名刺サイズチラシ作成を800枚した。配布に関してはまだ250枚しかできていない。市町村や病院へのアプローチを考える。</p> <p>(3)できておらず、早急に各助産所等に依頼をする。</p>

<p>SNS チーム</p> <p>1. 当会活動内容及び専門的な情報発信を行う</p>	<p>1.</p> <p>1)当会の活動状況や内容をタイムリーに発信する</p> <p>2)各分会・委員会・係りから依頼があれば連携して発信を行い、必要時各部署へ投稿の提案をする</p> <p>3)チームで投稿を企画(助産所紹介、助産師紹介、ブログ、妊娠出産育児や母子に関する最新情報など)</p>	<p>1. 今年度はこれまでの最大で 30 投稿(月 2～3 程度)できている。チームで投稿を各部署へ提案をしたり、各部署からの投稿依頼を工夫して発信することができ、メンバーも 1 名増えて初動より 3 年経過してシステムを構築できている現状。</p> <p><投稿内容一覧></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修案内 ・研修会開催報告(受講者感想などの紹介) ・助産所紹介 ・学会発表 ・本部からの案内 ・災害対策内容 ・当会主催研修内容を反映した情報発信 ・年始挨拶 ・国際助産師の日 ・国際女性デー ・産婆の日 <p>など</p>
--	---	---

目的 助産師の専門職業人としての能力を維持・向上させ、各部会が求める専門性の高い知識・技術を習得できる研修を企画開催する。

目標	計画・具体策	評価
1. 助産師としての資質を高める研修を企画・開催し、多くの参加を募る。	1.-1) 継続的・長期的視野で、又会員の要望する研修会を企画・開催する。(各部会で検討) <u>勤務部会</u> 子宮頸癌 産後ケア <u>助産所部会</u> 離乳食・小児の食物アレルギー 女性の生きづらさ <u>保健指導部会</u> 産後ケア 育休制度と父親支援 <u>役員会</u> 女性の人権 ※ 選択研修 4 講座・CIoCMiP1 講座を含む 合計 6 講座を予定	※資料① 2023 年度研修報告 参照 1.-1) 各委員会が提案し企画した研修は、すべて開催できた。(参加人数などは資料①を参照)のべ参加人数は、329 名と前年度と同数であった。
2. 産後ケアの法制化に伴う必要な指定の研修会を企画・開催する。	2.-1) 日本助産師会指定の産後ケア実務助産師研修該当研修 3 講座	2.-1) 今年度実施した 6 講座のうち、3 講座を産後ケア実務助産師研修として実施できた。
3. 研修会の周知を行い参加者の増加を図る。	3.-1) BAND、日本助産師会の一斉メール、奈良助産師会インスタグラムを工夫し、周知だけでは無く、参加・申込みがしやすい様にする。	3.-1) BAND、日本助産師会の一斉メールに研修案内の URL を掲載し、申込フォームにリンクできるようにした。 奈良助産師会のインスタグラムから、研修のお知らせや、参加者の感想を掲載した。
4. 円滑な研修会を開催する。	4.-1) コロナ感染の規制緩和に伴い、感染対策しながら、ハイブリッド研修の導入を図る。	4.-1) 2 講座をハイブリッド研修で開催した。対面での参加者は研修関係者のみで、多くの参加者はオンラインや録画配信だった。

	<p>-2) 研修会を円滑に開催する為に、各部会との連携を取り、その都度教育会議で検討を行う。 情報の共有・統一を図る為に、「研修計画依頼書」を工夫し、活用する。</p> <p>-3) 日助会員システムを利用した研修導入の検討</p>	<p>会場では音響の対応が難しく、開催継続には資材関係等、課題が残った。また、参加人数からは費用対効果が低かった。</p> <p>-2) 研修開催前に教育会議を計7回実施した。 日本助産師会の会員システムの導入もあり、研修終了後には登録作業を行った。 各部会から提出された「研修計画依頼書」を活用し、部会の意図に沿った研修を開催する事が出来た。</p> <p>-3) 2024年度が近畿地区研修担当県になったことで、日本助産師会の会員システムを利用した運営方法に変更を促され、今年度最後の研修会では、役員・理事など関係者を対象にプレテストを実施したことで、運営方法など課題や方向性が具体化していくことができた。</p>
--	---	---

2023 年度 事業報告

組織強化委員会

個人情報データを安全に管理し、個人情報の安全・助産師の専門職団体であることをアピールし新規の会員確保に努める

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 組織強化委員だれもが個人情報の管理を安全に確実にできるように組織管理業務マニュアルを作成する</p>	<p>1. ① 組織管理業務マニュアルの作成 ② 出来上がったマニュアルをもとに業務を行いマニュアルの改善を図る ③ 個人情報管理に関する研修に参加する ④ 紙ベースによる情報のやり取りを極力減らすとともに紙ベースの情報の処理についても検討しマニュアルに明記する ⑤ 現在までの紙ベースの情報を安全に処理する</p>	<p>1. ① どのような業務があるかを考えてきたが、まだ、それらをまとめて文章にすることはできなかつた。来年度、必ず仕上げたい。 ② マニュアルがまだできていない ③ 参加の機会がなかつた。 ④ 情報のやり取りそのものはメール等で行っていたが、メール等のやり取り自体が安全かどうかの検証ができていない また、メールなどの保存をどうするかも考えていく必要がある ⑤ どのような処理の方法が、最も安全か、考えられていない * 来年度は一人で考えるのではなく、委員会を開き、委員の中で検証しながら進めていきたい</p>
<p>2. 会員数の増加に努める</p>	<p>2. ① 研修会など対面でのイベントの機会に入会を勧める ② 看護協会の復職支援セミナーなどの機会も利用さ</p>	<p>2. 全くできなかつた 今年度の新入会員は 5 名、退会も 6 名 他府県への移</p>

<p>3. 賛助会員の増加に努める</p>	<p>せていただき入会を勧める</p> <p>③ 過去の退会理由をもとに会員確保に必要なことを探り実行に移していく</p> <p>④ 三部会だよりを利用して新規の会員確保や退会を思いとどまれるように努める</p> <p>3.</p> <p>① 現在の賛助会員に継続してもらえるように努める</p> <p>② 奈良県助産師会をアピールしていける機会を見つけ(本部総会など)賛助会員の案内をする</p> <p>③ 賛助会員の入会基準やメリットを明文化する</p>	<p>動1名で、会員数はほぼ横ばいである</p> <p>現時点で来年度他府県からの移動2名と新入会員1名の予定がある 年度初めは135名になる予定(4月1日の会員数 名)</p> <p>退会される方の退会理由を見ていくと、退会理由は助産師会の魅力があまりないというのが実際のところであると思われる。</p> <p>会員であるメリットよりも助産師会の魅力というのをアピールしていったほうが良いと思われる。</p> <p>3.</p> <p>全く、できなかった。</p> <p>来年度は、何もしないということではないが、他のことのほうが大切と思われるため計画から外すことにした。</p>
-----------------------	---	---

目標	計画・具体策	評価
<p>1 会員の安全意識及び安全文化の醸成</p> <p>(1).安全対策スキルアップを図る</p> <p>2 リスクマネジメントの知識を高める</p> <p>1) インシデント、アクシデント事例のケースカンファレンスの実施</p>	<p>1.</p> <p>1) 安全管理研修会への参加 (役員会と共同で年二回実施)</p> <p>2) NCPR 実技のブラッシュアップ講習会への参加</p> <p>3) 産科的危機出血への対応、胎児心拍モニタリング講習会の参加</p> <p>4) 県総合周産期センター及び地方周産期センター主催の研修会への参加</p> <p>5) 個人情報漏洩防止 (1) 各部会における個人情報取り扱いマニュアルの徹底</p> <p>2</p> <p>1) リスクマネジメント知識習得の手段としての奈良県医療安全推進センター主催研修への参加を促す</p> <p>2) 保健指導部会のインシデント・アクシデント報告のまとめとフィードバックの実施</p> <p>3) 助産所部会では異常、転院報告の IT 登録実施</p> <p>4) 異常・転院事例の症例検討を年 2 回実施する (自主的な事例提供を依頼し、まとめた事例は匿名とし、安全対策係が読み上げる形式で行う)</p> <p>5) 日本助産師会規定の助産所部会のインシデント、アクシデント報告の方法について再考する(安全対策委員会も含めた検討)</p>	<p>1</p> <p>1) 安全管理研修会実施済</p> <p>2) 助産所部会員及び分娩に携わる会員が、奈良県立医科大学及び奈良県産婦人科医会主催のブラッシュアップ講習会を受講</p> <p>3) 産科的危機出血及び胎児心拍モニタリング講習会は実施されず</p> <p>4) 県総合医療センター及び、県立奈良医大周産期センター主催の研修会への参加</p> <p>5) 個人情報漏洩防止対策について、委託訪問時に委託行政先によっては、重要な個人情報書類を預かるよう依頼を受けていたため、委託業務範囲外の事としてお断りする。</p> <p>2</p> <p>1) 奈良県医療安全推進センター主催研修会への出席は当会員のニーズに適合した内容に限って参加している。</p> <p>2) 保健指導部会のインシデント、アクシデント報告のまとめは実施しているが、定例の保健指導部会の場でのフィードバックについては参加者が少なく、当該会員に効果的なフィードバックがなされているか疑問</p> <p>3) 助産所部会の IT 登録及び、転院、搬送、異常報告は速やかになされている。</p> <p>4) 異常、転院事例の症例検討については、特に重症</p>

		<p>例や、情報共有すべき症例は無いものと判断。</p> <p>5) 2021 年から運用開始となった日本助産師会の作成したインシデント、アクシデント報告用紙は、奈良県では保健指導部会、助産所部会共に使用せず、当会独自の様式を使用していた。</p> <p>2024 年度からは報告用紙の内容が改訂されたため、日本助産師会において集計、分析の必要上保健指導部会、助産所部会共に新規報告書を使用する。</p>
--	--	--

目的 助産師会として、他職種と連携し災害対策予防行動、災害発生時の対処行動ができる

目標	計画・具体策	評価
<p>1.助産師会として役割を考え、災害対策予防行動、災害発生時の対処行動を実行でき、県下の他職種と連携し母子支援について考える事ができる</p> <p>2. 災害設定についても奈良県の被害想定を検討し対処を検討できる</p> <p>3. 会員用災害マニュアルを完成し、会員活動が奈良県下での母子の防災・減災について行動できるよう啓蒙する</p>	<p>1.委員会活動</p> <p>1)年6回の委員会の開催</p> <p>2)年1回の近畿地区合同委員会への参加</p> <p>3)本部研修会・連携集会への参加</p> <p>2.奈良県下の母子に対して災害対策・減災について啓蒙</p> <p>1)シェイクアウト訓練の参加</p> <p>自助・共助の意識を高められるように訓練する。各自が地域とのつながりを深める</p> <p>2) 奈良市総合災害訓練に参加（10/29 避難所訓練）</p> <p>3) 奈良市危機管理課との会議参加（2回/年）</p> <p>4) 奈良市の協定締結に向けて勉強会（コアメンバー）</p> <p>3.奈良県下の母子災害支援について考え行動できる</p> <p>1)市と連携し他職種参加する広域災害訓練に参加。</p> <p>会員助産師参加を促し、母子支援について、参加を通して考え</p>	<p>1.</p> <p>1) 委員会は年3回開催した。 (オンライン2回・事務局にて1回)</p> <p>2)近畿地区合同研修会はオンラインにて3月に開催され、参加した。</p> <p>3) ・R5 10/14.15 近畿地区研修会において、「各府県の災害対策について」のシンポジウムが開催され、シンポジストとして参加。奈良県の災害の特性と災害支援の現状と今後について発表した。</p> <p>・R6 年1月24日、日本助産師会主催の災害安否確認訓練を実施。今年度においては勤務施設での災害対応もある中、勤務部会員も参加。</p> <p>2.</p> <p>1) R5年7月10日奈良県シェイクアウト訓練に、団体名エントリーし参加</p> <p>2) R5年10月29日奈良市防災訓練への参加</p> <p>3) 奈良市防災訓練に向け、7/7,10/5 に奈良市役所にて会議があり、災害対策委員2名が参加</p> <p>4)災害対策委員会時話し合う</p> <p>3.</p> <p>1) R5年10月29日奈良市防災訓練への参加</p> <p>奈良市内の助産所との連携も考慮し、各助産所への参加</p>

	<p>る事ができる</p> <p>2) 奈良市と災害協定を結ぶよう働きかける</p> <p>4.災害マニュアル改定、本部承認後HP掲載</p> <p>1) 委員会活動内で会員用災害マニュアル検討を行う</p> <p>2)災害協定締結に向けて、奈良県助産師会の災害時の役割を明確にした災害マニュアル明記</p>	<p>を促す</p> <p>2) 協定を結ぶには至っていないが、奈良市との関係性を保つため、防災訓練への参加とそれに伴う会議に参加</p> <p>4.</p> <p>1) 委員会活動内で会員用災害マニュアル検討の必要性について確認。</p> <p>2) 災害マニュアルの明記に向け検討中</p>
--	---	--

2023 年度 事業評価

健康教育係

目的 目的1:安全で対象者のニーズに応じた、より良い出前講座の開催を行う。目的2:講座担当者確保に努め研鑽による講師力の向上をはかる。

目標	計画・具体策	評価
<p>1.</p> <p>1) 感染対策の順守</p> <p>2) 個人情報の保護</p> <p>3) 教材の整備と保守管理</p> <p>4) マニュアルの整備</p> <p>5) ニーズの把握・評価</p> <p>2.</p> <p>1) 広報等による周知・募集</p>	<p>1.</p> <p>1)-(1)感染予防マニュアル順守はかるため担当者会議で周知する</p> <p>1)-(2)感染対策物品の確保・管理を行う</p> <p>2)-(1)個人情報保護に関する会の研修会を受講勧奨する</p> <p>2)-(2)公文書ならびに報告記録の確認と保管管理を行う</p> <p>3)-(1)講座後の点検、必要時には修繕を実施</p> <p>3)-(2)教材使用予定、所在(受け渡し・返却)の把握</p> <p>3)-(3)教材の整備を行う:布教材再作成(妊婦ジャケット)</p> <p>4) 各種マニュアルについて随時情報の見直し・改訂を実施</p> <p>5) 講座後アンケートの集計・評価から、ニーズの把握と講座内容の改善点を模索する。</p> <p>2.</p> <p>1) 会員へ、HPや三部会だよりによる活動内容の周知・講座見学の勧奨など広報を行い講座担当者の確保につなげる</p>	<p>1.</p> <p>1)-(1)達成:担当者会議で随時周知</p> <p>1)-(2)達成:随時物品の確保・管理を行った</p> <p>2)-(1)達成:必須研修を勧奨、次年度継続者受講済</p> <p>2)-(2)達成:随時実施中、年度末に総括予定</p> <p>3)-(1)達成(担当者会議にて修繕実施、随時点検済)</p> <p>3)-(2)達成:担当者より報告随時あり・把握済</p> <p>3)-(3)達成:妊婦ジャケット再作成 済み</p> <p>4) 達成:感染対策について改訂</p> <p>5) 達成:アンケート内容は担当者会議にて随時、共有と振り返りを行い講座内容の学びにつながった。今年度からGoogleフォーム入力に変更した所回答率 56%(重複回答差引くと 53%)と低下。年度途中で説明を工夫し回答率改善みられた。評価は「非常に良い」「良い」であり好評だった。次年度の課題として回答率向上のため依頼先へ勧奨方法の工夫を重ねていく必要がある。</p> <p>2.</p> <p>1)-(1)達成:2名の新規担当者加入あり</p>

<p>2) 他団体の研修会への参加</p> <p>3) 講座担当者間の交流</p> <p>4) メイン講師の維持・確保</p>	<p>2) 日本家族計画協会等、活動に関連する他団体の研修会への参加勧奨・助成を行い、学びの共有など研鑽できる機会をつくることで講座担当者の育成や講師力向上をはかる</p> <p>3)-(1)担当者 Band 活用や担当者会議での情報共有時間を確保する</p> <p>3)-(2)交流会(仮称)開催により情報や経験・知識の共有をはかり、講師力の向上、モチベーション維持につなげる</p> <p>4)-(1)活動中のメイン講師数(6名)を維持しつつ、さらなるメイン講師の育成・確保に努める</p> <p>4)-(2)依頼先との調整を行うとともに、講座開催に関する作業内容等の改善を模索し、講座担当者の負担軽減を図る</p>	<p>2) 達成: 日本家族計画協会関連の研修会参加はあり各自の学びは得られ、担当者会議や Band にて情報共有されることもあった。</p> <p>助成活用・伝達講習は次年度の課題とする</p> <p>3)-(1)達成: 担当者会議にて毎回時間を確保、Band にてトピックなど投稿あり有用だった</p> <p>3)-(2)達成: 7月に交流会を実施し講座内容のデモストや参考図書・資料紹介、ざっくばらんな意見交換など活発な会となった</p> <p>4)-(1)達成: 新たに1名がデビューを飾り、メイン講師数は7名となった。</p> <p>4)-(2)達成: これまでの郵送による文書のやり取りをメール添付に変更し、窓口係より事前に必要書類を送付する形とした。そのため、事前打合せ時の持参書類を減らすことができた。また感染対策の変更に伴い、係への感染状況報告を簡略化でき連絡の煩雑さを減らすことができた。さらに記録用紙を改訂し、記載時間の短縮が図れるように工夫した。</p> <p>令和5年度 出前講座の依頼・実施報告</p> <p>・講座依頼数: 76件 ⇒うち実施: 75件 (小学: 26、中学: 45、高校: 2、その他: 3)</p> <p>⇒中止: 1件 (理由: 学級閉鎖が度重なり年度中の開催困難)</p>
---	--	---

2023 年度 事業報告

子育て支援係

目的

子育て世代への多様化する支援・役割を担う

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 子育て情報の定期的更新と最新情報の発信</p> <p>2. 子育て情報発信を SNS チームと連携して実施</p> <p>3. 企業、行政、地域、学校現場などからの子育て支援に関する講座やイベントの受託</p>	<p>1) 当会ホームページの子育て Q&A は情報が変更時及び年 4 回のチーム内協議において最新情報にする</p> <p>2) 夫またはパートナー向けの新たな Q&A の掲載</p> <p>3) 助産所マップは掲載・更新依頼時すみやかに対応</p> <p>2.</p> <p>1) 現在助産所マップ掲載中の助産所に協力を得て、当会 Instagram に新たな助産所情報を掲載していく (写真の更新、動画を入れる等投稿内容をアップデート)</p> <p>2) 新たに当会ホームページに掲載した子育て情報を、SNS 上でも発信できるよう文章や写真を作成する</p> <p>3) 当会 Instagram にシリーズ化した情報発信 (妊娠出産編、母乳育児編、ママの気持ちの変化など)</p> <p>3.</p> <p>1) 奈良市工務店(株)ライフスケッチにて「子育て相談会」「幼児期からの性教育」に関する子育て講座の実施 (令和 5 年 3 月依頼→4 月実施予定)</p> <p>2) 妊娠出産、育児、親子関係、親役割など安心して子育てできる内容の講座やイベントを依頼先へ提案。 講師は会員より募集。</p>	<p>1. HP 上の情報更新を随時実施。Q&A はより見てもらいやすくするために SNS も利用して発信できた。</p> <p>2. 当会の研修内容を反映した情報発信、また係りで独自に考案した子育て情報内容を定期的に SNS チームに提案することができた。 SNS 掲載内容→ 「抱っこひも」「妊娠中の貧血」「貧血の食事」 「子宮頸がん」「父親支援」「アンガーマネージメント」</p> <p>3. 広報を利用して依頼活動が十分できなかった。 来年度の依頼 1 件相談中あり。</p>

2023 年度 事業報告

委託訪問係

目的 母子とその家庭に適切な支援ができる。一定レベルの指導員を各市町村に提供するとともに、指導員がそれぞれの母子のニーズに合った支援を円滑に遂行できるように市町村と連携ができる。

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 市町村との委託事業継続のためのマンパワーの確保に務める。</p> <p>2. 指導員の質の向上を図る。</p> <p>3. 指導員全員が個々の研修受講状態や会議の出席状態を自己管理できるシステムを構築する</p> <p>4. 委託市町村との契約を円滑に遂行できるように会と委託市町村との連携を図る。</p>	<p>1. HPの活用。現役員から会員外の潜在助産師の発掘を行う。部会集会を活用し指導員全体の交流を活性化する。</p> <p>2. 部会集会で指導員が現状や困っていることを毎回発言できるように保健指導部会長と連携を図る。</p> <p>1)テーマを出しながら、個々が発言できることで、知識向上を図る。</p> <p>2)現在はリモート会議であるが、感染対策を行いながらハイブリッド会議も検討し、指導員同士の交流を行う。</p> <p>3. 申請書の改訂指導員申請書の改訂を行い、自己申請が12月・3月に内容を変えて指導者が使用しやすいようにする。</p> <p>4. 委託契約市町村会議に出席し、市町村と指導員との指導業務内容の把握・議案について把握し、会からの伝達時間を設けてもらい話し合いの場とする。</p> <p>1) 上記の準備は委託市町村リーダー指導員と、委託訪問係が事前に準備する。</p> <p>2) 次年度契約書は必ず12月中に委託契約市町村に</p>	<p>1. HP や BAND で募集を行うが、新規希望者なし。次年度退任者が2名のため、今後は13名で6市町の委託訪問続行予定。13名中の指導員で指導員不足の市町に入る予定。</p> <p>2. 指導員より、課題希望があった場合は部会長への報告は行えた。</p> <p>1)部会集会の参加者が少ないこともあったが、指導員からの困りごと、質問も聞かれ意見交換は行えた。</p> <p>2)ハイブリッド会議は行えなかった。次年度の課題とする</p> <p>3. 申請書の改訂を実施したことで、指導員の指導員証発行条件に関する進捗状況は把握しやすくなった。申請内容に応じて各リーダー指導員より確認の協力も容易になった。メール送信に指導員が負担になることも生じたため、より簡易に使用できるように改訂を今後の課題とする。</p> <p>4. 各会議に出席し、現状の訪問における問題は次の個人情報に関する部分で記載。</p> <p>1)問題なく、実施できていた。</p> <p>2)問題なく実施できていたが、メールでの(案)を送って</p>

<p>5. 個人情報保護</p> <p>6. 感染管理</p>	<p>提出依頼し、会長には1月初旬に提出。問題が無い場合かを2週間後に確認し、問題が無ければリーダー指導員から委託契約市町村に本契約書の作成依頼をする</p> <p>5. 訪問対象者の個人情報遵守のため契約書に添付されている個人情報保護の把握と契約書は常に確認できる状態にするように部会集会を利用し啓発する。</p> <p>6. 今年度は感染管理についても変更があると予測される。変更時は必ず委託訪問係に報告をリーダーから受け会の安全対策委員と情報の共有を図る。</p>	<p>きている市町村があった。次年度は全契約市町村全に会議時に依頼できれば、事務局へ取りに行く等の時間短縮できるため次年度の課題とする。</p> <p>5. 母子伴走型支援に伴い、申請書等の個人情報を訪問時に預かる事の無いように、安全対策と連携し各市町村に依頼実施した。契約書を指導員全員が所持できるように契約市町村に依頼する。</p> <p>6. R5年5月よりコロナが5類に変更となり、基本的な感染予防対策は継続中である。訪問時チェックリストの改訂の実施された。</p>
---------------------------------	---	---

2023 年度 事業報告

不妊相談センター

目的 不妊, 不育に悩む女性やその家族の悩みに寄り添い、不妊に伴う悩みに対応できるよう支援する

目標	計画・具体策	評価
<p>1.治療に伴う悩みや専門的な相談や人生相談に対応できるための研鑽を深める。</p> <p>2, 不妊相談センターについて、会員、県民への周知に努める。</p> <p>3, 個人情報の保護に努める</p>	<p>1) 不妊関連の研修会に積極的に参加し、知識理解を深める。生殖心理学会への参加予定</p> <p>2) メンバー間の情報共有のため BAND など SNS を通してメンバー間の情報交換を活発に行う。</p> <p>3) 研修会報告、県担当者との情報交換会を開催する</p> <p>4) カウンセリング法に関する知識技術をふかめる。</p> <p>5) 健康保険適用など法改正に伴う相談に対応できるよう知識理解を深める</p> <p>1) 公報等を利用し、相談センターの周知をはかる。</p> <p>1) 個人情報保護規定にもとづき、相談者の個人情報保護に留意する。</p>	<p>1) 2022 年より不妊治療の健康保険適応に伴う制度改革がおこなわれ、それに伴う相談に対応するため、各自資料を確認し、メンバー各自、相談対応に努めた。</p> <p>2) メンバー1 名生殖心理学会に参加し、最新情報の提供共有を行うことができた。</p> <p>3) 県担当者との連絡会議を開催し、不妊相談における現状、動向について報告し今後の課題について検討した</p> <p>4) 不妊治療に伴う精神的な悩み、人生生き方に関する相談など治療法以外の相談にかかわることも多く傾聴共感に努めることに徹することができた。</p> <p>1) 各市町村の広報に相談センターの案内を掲載していただいたが、件数に関しては前年度と大きな変化は見られなかった。</p> <p>2023 年度相談件数 78 件(3 月末現在)</p> <p>1) 録文書の保管に留意し、個人情報の保護に努めた。</p>

